

奈良県立医科大学新キャンパス建設工事基本・実施設計業務

設 計 与 条 件

1. 業務の背景と目的

奈良県立医科大学では、近年の大学を取り巻く環境や求められる役割の変化、ならびに超高齢社会を迎えたことによる附属病院に期待される多様なニーズに応えるべく、数十年先のあるべき姿を見定め、未来に向かって着実な歩み、大きな飛躍に期する道標とするために、「**奈良県立医科大学の将来像**」を奈良県とともに策定した。本学は今後、県民をはじめ本学に関わる全ての方の期待に応えられるよう、この将来像を現実のものとするべく、取り組んでいく。

新キャンパスの施設整備は、教育における理念「**豊かな人間性に基づいた高い倫理観と旺盛な科学的探求心を備え、患者・医療関係者、地域や海外の人々と温かい心で積極的に交流し、生涯にわたり最善の医療提供を実現し続けようとする強い意志を持った医療人の育成を目指します。**」、研究における理念「**研究の成果を患者への最善の医療に生かし奈良県民の健康増進を図るとともに、最先端の研究により医学の進歩に貢献します。**」を実現するための整備となることが求められている。

本業務は、「奈良県立医科大学の将来像」の実現のため、奈良県立医科大学新キャンパス建設工事（以下、「建設工事」という。）に係る建築物の基本・実施設計を行うものである。

2. 奈良県立医科大学のアイデンティティ（U I）

	理念	方針
教 育	豊かな人間性に基づいた高い倫理観と旺盛な科学的探究心を備え、患者・医療関係者、地域や海外の人々と温かい心で積極的に交流し、生涯にわたり最善の医療提供を実践し続けようとする強い意志を持った医療人の育成を目指します。	<ul style="list-style-type: none">・ 良き医療人育成プログラムの実践・ 教育の教育能力開発と教育保証・ 教育全般に関する外部有識者評価と学生参加の推進・ 学習環境と教育環境の充実
研 究	研究の成果を患者への最善の医療に生かし奈良県民の健康増進を図るとともに、最先端の研究により医学の進歩に貢献します。	<ul style="list-style-type: none">・ 研究基本方針の明確化・ 研究推進体制の効率化と強化・ 研究の外部評価の導入・ 奈良県民の健康増進への貢献
診 療	患者と心が通い合う人間味あふれる医療人を育成し、地域との緊密な連携のもとで奈良県民を守る最終ディフェンスラインとして、安全で安心できる最善の医療を提供します。	<ul style="list-style-type: none">・ 奈良県民を守る「最終ディフェンスライン」の実践・ 奈良県内基幹病院としての機能の充実・ 地域医療機関との機能分担、緊密連携の推進・ 各領域の担い手となる医療人の育成

法人運営	<p>最高の医学の探究、最善の医療の追求を使命として、互いに連携しながら自らの職務に誇りと情熱をもって取り組み、課題に対して自ら行動できる人材を確保・育成することで、教育・研究・診療の理念を実現し、発展し続ける法人運営を実践します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ガバナンス体制の確立 ・持続可能な経営基盤の確立 ・働きがいのある職場づくり ・積極的な情報発信
------	--	--

3. 設計と条件

(1) 建学の精神 "最高の医学と最善の医療をもって地域の安心と社会の発展に貢献する"を実現するキャンパス作りを目指す。

①良き医療人を育む充実した学習・教育環境の整備

- ・自発的かつ創造的な学習や研究ができる学習・教育環境の整備
- ・専門分野以外への関心を引き起こす学習・教育環境の整備
- ・異分野の人たちとのコミュニケーションが積極的に行われる学習・教育環境の整備

②多様な活動・ふれあいの場となる共有空間の設置

- ・学生同士、学生と教職員、学生と地域の人などとのコミュニケーションを誘発する場所づくり
- ・地域の人や学外者も気軽に利用できるスペースの整備

③機能的で利便性の高い研究推進体制の構築

- ・学内横断的な研究や大学としての研究など幅広い研究に対して柔軟に対応できる施設整備
- ・施設間の連携や協働を意識したゾーニング計画
- ・フレキシブルかつ機能的な使い方ができる施設計画

④奈良の歴史・風土を取り入れたキャンパス整備

- ・地域の歴史的風土を次世代に繋ぐキャンパス整備
- ・歴史的な街並みや景観を意識し、周辺地域と調和の取れたキャンパス整備
- ・近傍にそびえる畝傍山などの眺望確保に配慮し歴史的景観の保全や活用
- ・専門分野以外への関心を引き起こす学習・教育環境の整備
- ・異分野の人たちとのコミュニケーションが積極的に行われる学習・教育環境の整備

(2) 周辺環境との調和の考え方

- ・上記(1)④に記載する内容の他、橿原市景観条例における**一般地区(1)自然風致保全エリア**に位置づけられているため、それらの景観形成方針を遵守したものとする。
- ・新キャンパス整備計画は、大規模な敷地構成や大規模建築群となることから、奈良県の都市形成の歴史※に配慮しつつ、**地域の町並みや田園風景を阻害しないデザイン**となるよう配慮すること。
- ・「遠景」「中景」の見え方で存在する**重要な景観要素**を把握、その上、**それらとの調和**を考慮した建築デザインとすること。

- ※ 奈良県の都市形成の歴史を紐解くと、千三百年以上前の飛鳥京・藤原京・平城京の都が栄えた律令国家による都市づくりから始まる。さらに中・近世になると、社寺を中心とする門前町や城下町・宿場町として都市形成が進められ、また条里制に基づく水田の広がりや地域の空間形成の基盤ともなった。
- この結果、我が国においても比類ないこれらの歴史文化遺産は、豊かな自然環境とともに、固有の景観を築き上げ、その後の本県の都市形成の基盤となっている。

(3) 地区計画の遵守

- ・本計画地は、地区計画が定められており、**地域の特性を踏まえて健全な都市環境の形成**を図る。また、これまで継承されてきた風致の保全方針を尊重しながら、良き医療人を育成するために**充実した学習・教育環境を確保し、地域の人とのコミュニケーションを行える空間**を形成すること。

【別添 1：奈良県立医科大学地区 地区計画（計画図含む。）】

(4) 将来を見据えた設計への配慮

- ・我々が今まで経験したことのない人口世帯減少、超高齢、少子化時代を迎えており、これらにより深刻化する社会の様々な課題や、時代の変化に伴い発生する要因（IT技術の革新、AIの活用促進等）、化石燃料からの脱却の動きなど**大きなパラダイムシフトへの対応**が必要であると共に、これからの**先進時代に耐えうる「強靱性」**を備えた設計を行うこと。
- ・化石燃料が継続的に活用されるとは考えにくく、自然エネルギーを積極的に活用する等、数十年先を見据え、**環境資源の変化に耐え得る施設**となるよう考慮して設計すること。また、社会ニーズの変化により、**本学に求められる社会的責任を果たすことができる施設**となるよう設計すること。
- ・**「木」の利用**は、地球温暖化対策、炭素の固定化に関する議論が世界中で行われるようになり、化石燃料及び化石燃料に関する資産、つまり発電所やパイプライン、移動媒体などは、「座礁資産」となる可能性が大きくなっていることから、二酸化炭素吸収源として、**未来に対するメッセージとしても重要な視点**であるため、十分考慮して設計すること。

(5) 計画建物における設計の考え方

- ・新キャンパス整備計画は、先行整備と継続整備に分かれており、本業務は先行整備に係る建築物（付属する施設含む。）及び外構の基本・実施設計を行うものである。また、先行整備する部分と継続整備する部分との**デザインの連続性**を保つために、**デザインガイドラインの策定**も併せて行う必要がある。先行整備の対象となる主要建築物については、以下のとおり。

①実習・研究棟（延べ面積：約 8,780 m²）

②講義棟（延べ面積：約 8,430 m²）

学生間、学生・教職員間、学外の人との様々な交流を生み出せる空間づくりを行う。

1) 学生数に見合ったゆとりのある施設の確保

- ・将来的な機能の拡充を見据え、ゆとりのある各諸室の広さや諸室数を確保すること。
- ・学生アメニティや廊下などの共用スペースの充実を図ることで、ゆとりのある施設づくりを行うこと。

2)機能性・可変性の高い諸室・施設構成

- ・学生数、教育方針などの変化、機能再編に対応する可変性のある空間づくりを行うこと。
- また、同種類似機能を有する諸室は、動線を考慮して使い勝手のよい施設とすること。

3)学生の居場所の充実

- ・多学年の学生が集まれる居場所スペースを確保すること。
- ・各講義室は、学生にとって落ち着ける空間となるようゆとりをもった構造とすること。

4)多様な学内交流を生み出す共有空間・交流施設の拡充

- ・廊下や EV ホールなども交流スペースとなるような居心地のよい空間とすること。
- ・オープンスペースをコモンスペース等と一体整備し、コミュニティ空間を創出すること。

③講堂・図書棟（延べ面積：約 5,240 m²）

一般開放を想定した地域との交流空間としての施設づくりを行う。

1)ゆとりある閲覧・書庫スペースの確保（図書館）

- ・地域住民への解放することを考慮し、ゆとりのある閲覧スペースを確保すること。
- ・個別ブース形式の自習室を設置し、グループ学習が可能な室を設置すること。
- なお、配置等を含めて防音に配慮すること。

2)多目的に活用できる施設（大講堂）

- ・地域開放型でのイベント等を想定し、最大 1,000 名収容出来る構造とすること。
- ・様々な用途・利用者に対応し、誰もが使える、使いやすい施設とすること。

④体育館・クラブ棟（延べ面積：約 2,630 m²）

⑤武道館（延べ面積：約 740 m²）

学生及び教職員の活動施設として授業、課外活動での活用を想定して整備する。

1)機能を集約

- ・災害時には一時避難施設としての機能を有する施設として整備すること。

2)地域開放を想定した機能等の充実

- ・体育館にはトレーニングルームを併設し、一般開放も想定し、動線等に配慮すること。

【別添 2：新キャンパス整備事業に関する配置計画（案）】

【別添 3：本業務の対象建築物において想定される諸室の概要】

（6）スケジュールについて

建設工事は、別添 4「先行整備事業に関するスケジュール」により進める予定である。

（7）インフラ整備について

インフラ整備においては、**継続整備を見据えた設計**を行うこと。

インフラ整備計画は、別添5「新キャンパスにおけるインフラ整備計画（案）」に示す。

（8）本業務に係る実施体制

本業務は複数棟の設計を要することから、その実施体制については、各主任担当技術者（「建築（意匠）」「建築（構造）」「電気」「機械」）及び管理技術者による相互の連携、調整を図りながら、各棟並行して設計を実施できる適切な体制を整えて効率的に業務を進めること。また、必要に応じてランドスケープデザイン技術者も加えること。

（9）他業務との調整

次の他業務との相互の連携を図り、調整を行いながら業務を進めること。

また、計画工事工程の作成についても、他業務との調整を行うこと。

○ 「奈良県立医科大学新キャンパス造成詳細設計業務委託」